

1 単元名 世界の諸地域 アフリカ州

2 本単元の目標

- (1) アフリカ州で暮らす人々の生活を基に、地域的特色を大観し、資料から地球的課題の影響を理解する。
(知識及び技能)
- (2) アフリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や人々に与える影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) アフリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる地球的課題を主体的に解決する態度を養う。
(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①：アフリカ州に暮らす人々の生活を基に、地域的特色を自然環境や文化、歴史、産業の面から大観し、理解する。 知②：アフリカ州で顕在化している地球的課題が、地域的特色の影響を受けていることを理解する。	思①：アフリカ州の産業から、地球的課題の要因や人々に与える影響を多面的・多角的に考察している。	態①：地球的課題に問いをもち、課題に対して自分の考えを働かせながら社会との関わりを考えようとしている。 態②：解決の見通しをもち、粘り強く課題追究を行い、自分の考えを見直したり、調整したりしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領 第2章 第2節 地理的分野の目標、及び内容(2)「世界の諸地域③アフリカ」に基づいて設定している。本単元では、アフリカ州で暮らす人々の生活を基に、自然環境、歴史、産業などの地理的事象を大観し理解することを通して、アフリカ州が抱える課題を多面的・多角的に考察することができるようにする。そして、アフリカ州に様々な支援をしている先進工業国との結び付きや、アフリカ州のもつ自然環境と産業の可能性を通して、アフリカ州の課題を地球的課題として捉え、よりよい社会の実現に向けて考えていけるようにすることをねらいとしている。

(2) 生徒観 (第7学年*組*人)

令和3年*月*日 (*人調べ)

単元・題材にかかわる事前調査	
1	社会科の学習と実生活とのつながりを感じることはありますか。 ある：*人 ときどき：*人 ほとんどない：*人 ない：*人
2	北方領土の返還に向けての対応 ・自分の考えを友達との意見交換により見直し、新たな問いを見いだしている：*人 ・自分の考えを書いている：*人 ・無答：*人

本学級の生徒は、社会科の学習と実生活とのつながりを感じている生徒が、事前調査によると*人であった。ないと答えた生徒の中には、「世界や歴史は自分と遠い」と記したものもあり、社会的事象が身近に感じられていない実態が窺えた。また、北方領土の返還に向けての対応の課題では、他者との意見交換を通して、自分の考えを見直したり新たな問いを見いだしたりしている生徒は*人であった。中には、思い付きや感覚での解答もあり、解決過程を意識していないことが垣間見られた。このことは、課題を把握できず、自分の考えがもてなかった表れであり、生徒が1時間の学びの中で思うような達成感を味わえていないことも分かった。

(3) 指導観

中学校の地理「世界の諸地域」の分野では、学習する社会的事象が広く複雑になる。そのため、

自分と社会的事象とのつながりを感じられず、意欲的に課題解決に向かえない生徒も少なくない。そこで、社会的事象との出会いを「身の回り」「地球的課題」「未来の自分」といった三つの視点で捉えられるようにし、意見交換を重ねてアフリカ州の自立に向けた単元を貫く課題をつくる。そして、単元を貫く課題の解決をゴールとして見通しをもち、1時間ごとに課題解決を目指す。さらに、アフリカ州の自然環境、歴史、産業など毎時間の学習につながりをもてるように、振り返りカードやICTによるデータの蓄積を活用し、自分の学びを自覚させ、見直し調整しながら、次時への意欲付けを図る。単元の最後に、学んだことを基にアフリカ州の自立に向けた「地球サミット」を開催し、共生プランの作成・提案・選択をし、地球的課題と自分の生活との関わりを実感させていく。これらの学習過程を通して、社会との関わりを意識し、課題を主体的に解決しようとする態度を育てていきたい。

5 単元の指導計画（6時間扱い）

時	学習内容・活動	知	思	態	評価方法・留意点等
1 本 時	1 アフリカ州のイメージを出し共有する。 2 アフリカ州の写真を見て気付いたことを見つける。 3 アフリカ州を「身の回り」「地球的課題」「未来の自分」の三つの視点で捉え、意見を交流する。 4 アフリカ州の地球的課題から単元を貫く課題を設置する。 アフリカ州が幸せになるためには、何が必要なのだろうか。 5 単元を貫く課題の答えの予想を立て、キーワードを整理し意見を交流する。 ・振り返りカード ・デジタルホワイトボードに入力 個人 → グループ → 全体 6 単元の見通しを立てて、振り返りをする。				・生徒のアフリカ州のイメージを、メンチメーターを使って全体で共有し、イメージに偏りがあることに気付かせる。また、アフリカ州の未来についても問い、単元最後の地球サミット時との考えの変容を図れるようにする。 ・自分の身の回りにあるアフリカ州に関する物から興味・関心を広げ、地球的課題とのつながりに目を向ける中で「問い」をもてるようにする。 ・個人の問いをグループで意見交換し、学級の課題に練り上げる。 ・SDGsに触れ、アフリカ州を考えることは自分たちの未来にもつながることを助言する。 ・単元を貫く課題の答えの予想を振り返りカードに記入し、毎時間の学習後に自分の学習を自覚できるようにする。 態①：アフリカ州の地球的課題に問いをもち単元を貫く課題の答えの予想を立てている。予想が立たない生徒には、友達との意見交換から選ぶよう助言する。 【観察、振り返りカード】 ・単元の構成を「学びすとカード」で紹介し課題追究の方向性をもてるようにする。 ・本時に振り返りを書き、1時間毎のつながりを意識し次時への意欲付けを図る。
2	1 アフリカ州の自然環境や文化、歴史の特色について関心を高める。 2 本時の学習課題を立てる。 なぜアフリカ州には、アフリカ系以外の人が住んでいるのだろうか。また、移り住んだことによって起こる影響を考えよう。 3 予想を立てる。 4 学習課題に対する解決の見通しを立てる。	○		○	・前時の振り返りを本時の学習につなげられるようにする。クイズからアフリカ系以外の人々が住んでいることに疑問をもたせ、課題につなげる。 ・移り住んだことによる影響を、課題点だけではなく、良い点にも触れて考えられるよう助言する。 ・振り返りキーワードから本時の課題解決に

	5 気候、文化、歴史について調べる。 個人 → グループ → 全体 6 本時のまとめをする。 かつてヨーロッパ諸国の植民地であったため、多くの人々が移り住んだ。その影響で支配した国の言語が公用語になった。国境により民族が分割され、民族同士の対立が起こっている課題がある。 7 振り返りをカードに記述し、共有する。			関係するものを提示し見通しを立てる。 ・気候・文化・歴史の三つの視点を提示し見いだした地理的な事象をワークシートに記述する。 知①：アフリカ州に暮らす人々の生活を基に、地域的特色を自然環境や文化、歴史、産業の面から大観し理解する。追究が滞っている生徒には、資料を読み取る視点を助言する。 【発表・ワークシート】 態②：解決の見通しをもち、粘り強く課題追究を行い、自分の考えを見直したり、調整したりしている。振り返りの際、自分の1時間の変容が書けている生徒には、単元を貫く課題の答えの予想にも目を向けるよう助言する。 【ワークシート・振り返りカード】
3	1 アフリカ州の産業について関心を高める。 2 本時の学習課題を立てる。 アフリカ州の産業には、どのような特色があり、人々にどのような影響を与えているのだろうか。 3 予想を立てる。 4 学習課題に対する解決の見通しを立てる。 5 アフリカ州の農業と鉱産資源の分布の特徴について調べる。 個人 → グループ → 全体 6 人々に与える影響を考える。 【豊富な資源が採れるのになぜ貧困が続いているのだろうか？】 個人 → グループ → 全体 カカオやコーヒーなど特定の作物を栽培し、プランテーション農業が盛んである。レアメタルやダイヤモンドなど豊富な鉱産資源が採れる。その反面、モノカルチャー経済により人々は毎年安定した収入を得られないのが課題になっている。 7 振り返りをカードに記述し、共有する。	◎	○	・資料から日本の農業との違いを気付かせる。前時の振り返りからアフリカ系以外の人も産業に従事しているかを投げかけ、生徒に問いをもたせる。 ・振り返りキーワードから本時の課題解決に関わりがあるものを提示し、見通しを立てる。『サハラ砂漠、植民地、紛争』 ・地域別、気候別に分類してワークシートにまとめ、コーヒーなどの嗜好品がなぜ栽培されているかを考えさせる。 ・稲作には日本の支援が影響していることに気付かせる。 知①：アフリカ州に暮らす人々の生活を基に、地域的特色を自然環境や文化、歴史、産業の面から大観し、理解する。 【ワークシート・発表】 ・レアメタルやダイヤモンドなど貴重な鉱産資源が産出されていることを確認する。 ・アフリカ州の中で、経済的に恵まれている南アフリカ共和国の輸出の資料と比較させ違いを確認させる。 ・活動が進まない生徒には、農業の特色でもある特定の作物に着目するよう促すとともに、日本の輸出との違いを助言する。 態②：解決の見通しをもち、粘り強く課題追究を行い、自分の考えを見直し、調整している。書けない生徒には、自己の予想との変容に視点をあてるよう助言する。 【ワークシート・振り返りカード】 ・本時の学習を基にデジタルホワイトボードを用いてアフリカ州の課題を青色の付箋で入力し単元を貫く課題への見通しをもつ。

4	1 アフリカ州の都市に関心をもつ。 2 学習課題を立てる。 アフリカ州が発展する上で、他にどのような課題があるのだろうか。 3 予想を立てる。 4 解決の見通しを立てる。 5 都市化と人口増加によって引き起る問題点を調べる。 個人 → グループ → 全体 人口増加の影響で人が都市に移り住み、スラムができたり食料不足が起こったりし、乳児死亡率が高い原因にもなっている。 6 振り返りをカードに記述し、共有する。			・土浦市とケニアの都市を比較し生活環境や格差の違いに気付かせる。 ・振り返りキーワードやノートからアフリカ州の課題を確認し、ワークシートにまとめる。 思①：アフリカ州の地球的課題の要因や人々に与える影響を多面的に考察しワークシートに整理して書いている。活動が滞っている生徒には、画像資料と統計資料を比較する視点を示し、変化によって引き起こりそうな課題を考えさせる。 【発表・ワークシート】 態②：解決の見通しをもち、粘り強く課題追究を行い、自分の考えを見直したり調整したりしている。分かったこと以外にも、次時への学習への見通しも書くよう、助言する。 【ノート・振り返りカード】
5	1 今までの学習を振り返る。 アフリカ州の課題を整理し展望を考えよう。 2 見通しをもつ。 3 課題をシートに整理する。 4 原因と展望を考える。 個人 → グループ → 全体 5 アフリカ州にとって今考えるべき課題だと思うものを選択する。 予想されるアフリカ州の課題 ・紛争、内戦 ・モノカルチャー経済 ・水質環境 ・児童労働 ・インフラの整備 ・スラム化 ・医療体制 など 6 選択した課題についてグループで調べる。 7 振り返りをカードに記述し、共有する。	◎	◎	・振り返りカードを基に、アフリカ州がどのような地域だったかを想起させる。 ・振り返りキーワードを基に、見通しをもち課題を整理していく。 ・課題とその原因、人々に与える影響や展望を分けて書くよう助言する。 知②：アフリカ州で顕在化している地球的課題が、地域的特色の影響を受けていることを理解する。 【発表・ワークシート】 ・全体での共有場面では、タブレットPCを活用し、アフリカ州の課題を視覚的に捉えられるようにする。ジャムボードには黄色の付箋で入力し、1時間目からの変容を感じ取れるようにする。 ・Web ページや書籍から情報収集し、スライドにまとめる。自宅でも、クラウド上で、友達や教師と双方向でやり取りができるようにする。 態②：解決の見通しをもち、粘り強く課題追究を行い、自分の考えを見直したり、調整したりしている。 【ノート・振り返りカード】

6	1 今までの学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。 地球サミット～アフリカ州が幸せになるために今何が必要なのだろうか。 2 見通しを立てる。 ・アフリカ州の幸せに向けての各提案を確認する。 ・今必要だと思う三つを選択する。 個人→全体 3 アフリカ州の幸せに向けての提案をする。 4 意見交換する。 ・質疑応答をする。 ・選択した三つを共有する。 5 単元を貫く課題の答えを書く。 アフリカ州の幸せのためには、どれも必要なこと。地球に生きる一人として、社会で何が起こっているのかを知ることから始めよう。 6 アフリカ州を振り返る。 ・アフリカ州の未来に向けて ・アフリカ州を学習する前の自分 ・自分と社会の関わり 個人 → グループ → 全体			・アフリカ州の未来のために、切実に思える課題を振り返り、自分ごととして課題と向き合えるようにする。 ・前時までにジャムボードでまとめた課題点を基に、提案を聞く。アフリカ州の課題の相互のつながりや、そこで暮らす人々の立場で聞くよう促し、多面的・多角的な視点でアフリカ州の課題を捉えられるようにする。 ・今必要な政策や支援、解決すべき課題を三つ選択しておく。その際、最適解を見つけるのではなく、アフリカ州の今を、自分の立場でより深く考えてもらうための選択であることを確認する。 思①：アフリカ州の支援が必要とされる背景を踏まえ、今後の支援策を多面的・多角的に考察し表現している。 【発表・ワークシート】 ・各テーマの提案を聞きながらメモし、自分の考えをワークシートで調整できるようにする。その際、自分の中での優先順位の基準をメモしておくようにする。 ・メンチメーターを使い各自の考えを可視化しリアルタイムで共有を図る。全体で必要だと思う選択を意見交換する中で、社会的事象に対しての捉え方を考えさせるようにし、学びの調整につなげていく。 ・書くことに窮している生徒には、明確な答えがあるわけではなく多様な考えがあって良いことや、今までの振り返りを見て書くよう助言する。 ・SDGsに触れ、持続可能な開発目標の達成には、一人一人の意識が必要であることを確認する。 ・アフリカ州を学習する前と今の自分をICTを使って可視化しながら比較し、自分の気持ちの変容や成長を感じられるようにする。 ・振り返りを友達と紹介し合い、アフリカ州の未来や、幸せな社会を問うことで社会とのつながりを意識できるようにする。 態①：地球的課題に問いをもち、課題に対して自分の考えを働かせながら、社会との関わりを考えようとしている。 【観察・ワークシート・振り返りカード】
---	---	--	--	---

